

悲鳴を上げる介護現場

— 職員不足が深刻と予想 —

2025年度に介護職員が 全国で約38万人不足する

介護の現場は、「3K（きつい、危険、汚い）職場でありながら、給与が低い」との指摘もあり、現在でも人材の確保に苦慮しています。

大阪府の介護職員充足率は2025年になると84.5%まで大きく低下することが推測され、15歳～65歳の生産年齢人口はさらに減少していきます。日本の働く人口そのものが減少していくなかで、介護職員をどうやって確保していくのでしょうか。

景気が好転すれば、年々増加し続けてきた今の介護職員たちさえ、より高給を得られる他産業に流れていく恐れさえあります。そして一番の問題は、介護は仕事の難しさ、過酷さに比べて給料が思うように上がらないことです。

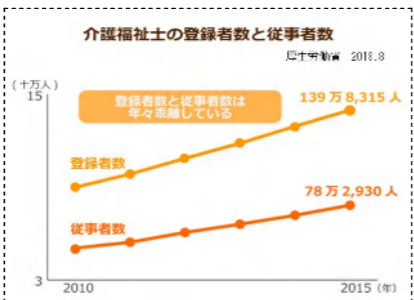
大阪は33,866人が 不足している

介護職員が不足している理由について、同業他社との人材獲得競争が厳しい56.9%、他産業に比べて、労働条件等が良くない55.9%、介護業界へ人材が集まらない44.5%であった。介護の仕事をしてい

る外国人労働者について、「いない」は91.4%、「いる」は5.4%



であった。また、「いる」5.4%のうち、外国人労働者を受け入れた経緯は、「日系人」が17.5%で最も高く、次いで「留学生、就学生」、「EPAによる受け入れ」の順であった。外国人がいる事業所のうち、「その他」58.6%には、日本人の配偶者が含まれている可能性が高い。国籍は「フィリピン」40.1%、「中国」15.3%、「ベトナム」12.2%で今後の活用予定については、「活用する予定はない」が80.1%、「活用する予定はある」



が15.9%であり、「活用する予定はある」と回答した事業所のうち、技能実習生としての受け入れを考えている割合が51.9%であった。

外国人労働者を今後活用する上での課題としては、「利用者等との会話等における意志疎通に支障がある」は58.9%、「日本語文章力・読解力の不足等により、介護記録の作成に支障がある」は54.1%、「日本人職員との会話等における意志疎通に支障がある」が46.5%であった。（介護労働安定センター調査）

重労働・低賃金の介護職員 若者離れも深刻

労働者の所定内賃金は平均で27,275円であり、これで若者が「介護業界で働くぞ!」と思うでしょうか？家族を養えるかも怪しい給料では誰も飛びつきません。他業種と比べて明らかな賃金の低さは否めません。また一方では事業所に支払われる介護報酬が引き下げられてしまったため、事業者に対する負担が重くなりました。

介護職員の賃金を上げようとする、介護保険の負担増という問題にも直面します。果たして10年後、253万人が必要とされている介護職員が確保され、さらには、介護の施設や事業所そのものが存続できているのか疑問です。2050年には1人の若者が1人の高齢者を支えなければならないとも予測されているなかで、次世代の若者は高齢者とのように向き合うべきなのか？社会全体でどのように高齢者を支えていくのか、検証と対策が求められています。

（執行部 陣内恒治）



発行 行
大阪市港区築港1-12-27
全日本港湾労働組合関西地方大阪支部
発行責任者 國分仁昭



1月12日～13日、ホテルライオン新大阪にて全港湾大阪支部2019年春闘討論集会が総勢75名の参加で行われました。

開会あいさつを山田副委員長がおこない、樋口委員長のあいさつに続き、来賓では関西地本より藤崎書記長のあいさつを受けました。小林書記長より19支部春闘方針の提案がされ、その後「次世代の育成について」というテーマでの分散会を開催しました。

分散会の趣旨説明では大阪支部の現状、特に組合員数の減少、その事による財政の圧迫等、さまざまな危機の認識を共有し、今後の大阪支部をどう強化すればいいのかを議論するよう促されました。

分散会は3班に分かれ、2班を一般層、もう1班に青年部層を集め、それぞれの班が熱い議論を交わしました。

夕刻からは、支部新春旗開きが開催され、青年部の港湾労働歌のコーラスを皮切りに、樋口委員長があいさつし、来賓よりそれぞれ

あいさつを頂きました。

催し物として川口真由美さんを招いて、熱い想いのこもった歌が披露されました。また、ビンゴ大会等大きく盛り上がりました。

2日目は港湾部会・車両部会より、事前に行われていた春闘討論集会の報告・提案が各事務局長からあり、生コンブロックでは松本執行委員より全日建連帯労組が弾圧を受けている事による経過と現状が報告されました。つづいて、前日に開催された分散会報告を各班より受け、春闘方針と合わせて全体討論に入りました。

さまざまな議論がされた事を踏まえ、執行委員会よりまとめの提案がされ、大阪支部2019年春闘方針が確立されました。

閉会のあいさつは陣内副委員長より「今春闘、日を決めただ中で皆が一斉に旗を揚げ、腕章を巻くような、たたかう春闘にではなくてはいけない」との言葉もあり、最後の団結ガンパローは大変力強いもので締めくくりました。

今回の討論集会は、最初の趣旨説明の中で「危機感」というワードを強く出した形でしたが、大事なのは危機感を共有した上で組織強化に対し、個々が何をすればいいのを考え実践する事だと思えます。そのためにはそれぞれが意見を出し合い、それについて、いかに大衆路線での議論が繰り返され確立されるかが肝心な事です。

今年は大阪南港で開催されるG20や地方統一選挙・参議院選挙、また大阪府知事・市長のダブル選挙や消費税の増税が予想されます。

わたしたち労働者の取り巻く環境は決して平坦なものではありません。

賃上げと合わせて政治的諸課題にも正面から向かい合い、困難や圧力に屈する事なく、今まで以上の強固な気持ちと団結力を持って2019年春闘をたたかい抜きましょう！

（実行委員会 横山貴安基）